

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立芦屋特別支援学校 教諭 秋元 雅仁	研究グループ名 芦屋市インクルーシブ教育研究会	72
-----------------	--------------------------	----------------------------	----

研究テーマ分類番号 (15)

(1) 研究テーマ	
インクルーシブ教育システムに基づく「学習支援室化」の実現と、学校「元気化」計画 ～通常学級担任と特別支援学級担任、学校生活支援教員の協働体制～	
(2) 研究経過及び具体的な取組	
5月上旬	大和大学教授研究室を訪問し「インクルーシブ教育」における教科用図書のあり方について指導助言を受ける。 (場所) 大和大学教授研究室
6月上旬～9月上旬	インクルーシブ教育指導者講習会の実施 (場所) 兵庫県立芦屋特別支援学校 講師：兵庫県立芦屋特別支援学校教諭・主幹教諭 兵庫県合理的配慮協力員・芦屋市合理的配慮協力員 大和大学教授
7月下旬～8月上旬	芦屋市内幼小中特別支援学級・特別支援学校で教材教具を開発
8月上旬～	「芦屋市教材教具展」を開催 (場所) 兵庫県立芦屋特別支援学校
8月中旬～	小学校国語教科用図書(芦屋：光村出版)の書き換え(簡易化)教科書のモニター使用(A小5年、B小1年)を実施
9月上旬～	希望に応じて小学校国語教科用図書(芦屋市：光村図書)の簡易化版の作成開始。A小、B小、C小、D小で使用開始。 見本版を大和大学教授研究室に持ち込み、共同研究を依頼。 (場所) 大和大学教授研究室
9月上旬～	希望に応じて中学校国語教科用図書(光村図書)の簡易化版の作成も開始。E中で使用開始。
10月～11月	特別支援学級や通級指導教室あるいは通常学級の授業での簡易化教科書やワークシートの使用成果を評価 (評価内容) 学習態度 提出物の内容 授業中の発言 テスト結果 授業への意欲・関心 など
11月上旬	筑波科学技術大学准教授により簡易化教科書のモニター使用が実施され、肯定的評価を受ける。 (場所) 筑波科学技術大学准教授研究室
12月上旬	個人懇談会で保護者とも学習成果について確認し、支援の合意形成を図る。その後、各校の校内委員会で、個に応じた教材作成の使用について組織的な共通理解を図る。
12月中旬	研究グループの実践報告会を開催し、簡易化教材の有効性を確認すると共に、教材準備や事前指導あるいはアフターフォローなどの実践が、全ての子どもたちの有機的な授業参加を促す「学習支援室」の役割を果たしてきた事を確認する (場所) 兵庫県立芦屋特別支援学校。

